

## 調査研修報告書（議員用）

報告者： 藤原 洋二

|  |                  |
|--|------------------|
| 実施場所：ワークピア広島（広島市南区金屋町1-17）   | 実施日：2023年8月9・10日 |
| <b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）</b> <p>広島県内の病院再編が進んでいる。特に関心を集めているのは、広島市を中心とした8病院（県病院、JR広島病院、中電病院を統合し、舟入市民、土谷総合、広島記念、吉島、マツダ病院の一部機能移転）の再編計画である。</p> <p>広島県は「全国トップレベルの高度医療を提供する機能や、医療人材を育成・派遣する機能を持つ、高度医療と人材育成拠点」として、1000床規模の新病院構想がある。</p> <p>そこで、県北地域や庄原市における人口減少が著しい中山間地域の病院経営における現況や課題、問題について研修したいと考えた。</p>  |                  |
| <b>■参考とすべき事項</b> <p>①今後の病院経営においては、医師をはじめ、薬剤師が不足し、へき地病院では、臨床検査技師や放射線技師、理学療法士なども不足することが予想されるための確保対策を講じること。【医療・介護の人材不足が加速する】</p> <p>②少子化は今後においても進むが、高齢者は団塊の世代が平均寿命に達するまで減少しにくい傾向にある。</p> <p>③「子ども医療や高齢者介護」が受けられない場合には、市外に転出することが考えられる。</p> <p>④市内に病院や介護施設が少なくなり、雇用の場が縮小され、若者を中心に市外に転出する恐れがある。</p> <p>※本市のような地方自治体において、産業振興の視点として病院や福祉施設を維持拡大することは「まちづくり（経済波及効果）」の視点として有用な政策として位置付けることができる。また、医療・介護人材を確保（正規職員）することで、合計特殊出生率に影響を与える可能性を秘めている。</p> <p>※西城病院の経営などを分析しながら今後の在り方を研究したい。</p> |                  |
| <b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b> <p>本市では、総合病院である庄原赤十字病院をはじめ、市立西城病院や各診療所、民間病院の体制を維持することが「安心して暮らせる地域」として市民の支えとなる。</p> <p>現実的には、中核病院三次中央病院と連携する中で、総合病院庄原赤十字病院を核とした緊急医療から介護・福祉までのバランスの取れた体制を構築する必要がある。</p> <p>なお、介護（通所・在宅）施設や看取り施設（医療・介護・福祉難民対策）との連携を継続することが大切である。</p> <p>その体制をも維持・拡大することが「まちづくりの視点」として、本市の課題（働く場所の確保、少子高齢化、人口減少）を解決する新たなキーワードとして活用できる可能性を秘めているため、本市の新たな施策のポイントとして活用すべきと考える。</p>  |                  |